

ニホンカワウソ 絶滅種指定



昭和54年8月頃、新莊川
川付で撮影されたカワウソの
鍋島 昭一氏撮影写真

しんじょう

2012. 10. 1
すさき・かわうそクラブ会報
—No. 14—
発行：すさき・かわうそクラブ事務局

レッドリスト公表

2012年8月28日

環境省が第4次レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）を公表し、ニホンカワウソが絶滅種に指定されました。最後の生息記録が1979年であり、中型の哺乳類が生息確認出来ず30年以上が経過していることもあり、「絶滅の指定は仕方がない」との声がある一方、「生存していると思っていたのに」「わずかな可能性は残っている」など、あきらめきれない声も聞かれました。

カワウソが生きるにはあまりに厳しい自然環境の変化

日本が高度経済成長を突き進んだ1960年代～1970年代、川には工場から排水が流れ、治水や生活環境の改善のため、護岸工

事が進みカワウソが食べる魚が減りました。また上質な毛皮を目的とした乱獲もあり、高知県が保護事業に乗り出した1970年代にはすでに生存確率がかなり低くなっていたと思われまふ。

未来の自然を考える

今回発表されたレッドリストの中には九州地方のツキノワグマ、ダイトウノスリ（鳥）などが絶滅とされたほか、ゲンゴロウ、ハマグリなど、かつては身近にいた昆虫なども絶滅危惧類に指定されました。このことは環境破壊が進んでいることの証であり、人間にとっても好ましくない状況です。

須崎市ではカワウソの絶滅種指定後も、豊かな自然を残そうという方針に変わりはなく引き続き、新莊川をはじめ、須崎市の自然を守るまちづくりを進めます。

しんじょう君
らのメッセーじ

しんじょう君はみんなの永遠のアイドルだよ☆



鍋焼きラーメン食べた



しんじょう君
@susaki_city_PR

かわうそ絶滅なんてかわうそ

返信 削除 ★お気に入り登録

30
件のリツイート

4
お気に入り



しんじょう君のツイート

すさき野外博物館

須崎市では、かわうそそのまちづくり事業の一環として、NPO法人四国自然史科学研究センターとともに「すさき野外博物館」を開催しています。

本年度は、4回開催し、市内外から多くの方に参加をいただきました。

ホタルとカエルのタベ



6月2日(土) 坂ノ川で初めてのホタルの観察を行いました。参加者は40名余りと大盛況。事前に新荘公民館でホタルやカエルの種類を勉強

干潟の生き物



し、その後みんなで歩いて観察現場まで向かい、ホタルを観察しました。雨上がりの現場には無数のホタルが群れをなしており、幻想的な風景を観察することができました。

7月21日(土) 桜川・押岡河口干潟でシオマネキ、ベンケイガニ、チコガニなどの観察を行いました。当日は片方のハサミが大きくて珍しいシオマネキが多数観察できたほか、チコガニは小型のものが数百匹もハサミを上下する求愛行動を行っており、大変興味深く観察できました。

ツバメのねぐら入り



8月11日(土) 桐間池のヨシ原でツバメのねぐら入りの観察会を行いました。

19時を過ぎて辺りが暗くなってくると、ツバメの集団が戻ってきます。またたく間にその数は増え、空一面が数百羽のツバメの群れで覆いつくされました。何周か空を旋回したあと、ヨシ原の枝にとまります。ヨシ原で過ごすツバメは巣をつくらず、直接枝で夜を過ごします。この姿が見られるのももう少しで、秋には南方に渡っていきます。他にはムクドリの大群が一斉に羽ばたく様子が観察できました。

ゴリを知る



8月18日(土) 新荘公民館前の新荘川でゴリなどの川魚の観察会を行いました。

前日仕掛けた網に多数のテナガエビ、ゴリ、カニがかかっており、大きいウナギも捕獲できました。

(観察後放流しました。)

テナガエビ、ゴリは2種類おり、その違いについて、講師の山下氏と谷地森氏から説明を受けました。

参加者の皆さんも各自で網やバケツを持参し、川魚を捕まえて観察しました。



「すさき・かわうそクラブ会員になってくださる方を紹介してください！」

★絶滅宣言が出されても、引き続き須崎市の自然を守る姿勢に変わりはありません。

「すさき・かわうそクラブ」では、かわうそのまちづくりを応援してくださる方を募集しています。詳しくは、事務局までお問合せください。

また、かわうそのまちづくりに関するご意見・ご質問などもお待ちしております。

(事務局) 須崎市企画課

〒785-8601 高知県須崎市山手町1-7
TEL 0889-42-5691 FAX 0889-42-7320
E-mail kikaku2@city.susaki.kochi.jp

